地質調査所創立100周年記念行事おこなわれる

沢　　俊　明（地質調査所次長）
Toshiaki SAWA

地質調査所では　創立100周年を記念して記念出版物の刊行　所内一般公開　記念式典ならびに記念講演会などの諸行事を実施し100年の回顧とともに二世紀目の歴史に向って第一歩を踏み出した．　ここに記念行事の模様のあらましを紹介する．

沢　俊明　次長

最初に諸記念行事の実施に至る経過を簡単にのべておく．昭和52年5月「地質調査所創立100周年準備委員会」が設けられて国内外の関連資料の収集がなされ　53年5月　記念式典　記念出版物（100年史　地質アトラス　地質ニュース記念号　要覧等）記念講演会　地質調査所マークの制定　記念切手の発行等の行事内容およびそれを計画　推進するための委員会の設置が答申された．

筑波移転後の55年1月　従来の委員会を解散して　新たに「地質調査所100周年記念行事準備委員会」が設置され　同年5月9日の第1回委員会において　記念行事について討議され　記念出版物の候補としては　(1)地質アトラス　(2)地質調査所100年史　(3)地質鉱産誌（Ⅱ）　(4)主要研究業務紹介の小パンフレット　(5)500万分の1日本地質図があげられ　出版の可否を含めて担当者が早急に準備ないし検討にはいることとなった．また　記念式典　その他の記念物　記念行事等についても検討を進めることが決められた．　以後　全体的な委員会の会合とは別に記念出版物その他の記念行事ごとに委員会　あるいは担当者によって詳細に具体的な検討が行われ　編集作業などが着々と進められた．

56年4月　記念行事実行のための所内体制として　実行委員会のもとに　総務委員会　小委員会（企画　地質アトラス．地質調査所100年史）事務局からなる組織を設置し　実行準備を進めた．　記念マークを決定した．　新設の企画委員会は　記念式典　講演会　所内公開　地質見学会などについて10数回の会合を重ねて計画をたてた．　56年12月　従来の実行委員会の組織体制を明確にするとともに　行事委員会を加えた．　57年7月企画委員会は業務終了により発展的に解消し　あらためてその大部は行事委員会の中に移行するとともに　行事委員会内部の体制を固めた．　以後　各担当の委員会の討議を踏まえ　実行委員会の回を重ねて記念行事実行の万全を期した．

所内公開

9月25日（土）26日（日）の両日　午前10時より午後4時まで　研究本館　海洋実験棟　実験地学研究棟および地質標本館について研究施設の一般公開を行い　研究成果の一端を披露した．　研究本館では「地球の化学」—岩石試料処理室　質量分析室　化学実験室　K-Ar年代測定室　安定同位体比実験室　「物理探査」—電気探査法・重力探査法　地震探査法・空中磁気探査法　「地質データの処理」—データベース端末室　地震地下水テレメーター室　「燃料資源」—堆積盆シミュレーション実験室　炭質実験室．　海洋実験棟では「海底をさぐる」—堆積物の放射年代　底質と環境調査　マンガン団塊の研究　海底地質・地球物理．　実験地学研究棟では「地殻の物性を調べる」—岩石変形実験室　高圧実験室　岩石破壊靱性実験室．　大会議室では「地質図をつくる」—地質図の出来るまで　内外地質図の展示　「海外地質協力事業の紹介」等の研究分野別に公開が行われた．なお　地質標本館では　第1展示室「地球の歴史」　第2展示室「生活と鉱物資源」　第3展示室「生活と地質現象」　第4展示室「分類展示」について行われた．

25日は大雨にもかかわらず遠くからの見学者があり両日で約1,300に達し　熱心に研究者に質問しているのが諸所でみうけられた．

記念講演会

9月30日（木）午前9時30分より10時50分まで　工業技術院筑波研究センター共用講堂において　山田企画室長の司会により　陶山所長「地質調査所100年の回顧と展望」　垣見環境地質部長「地震予知技術の展望」　角地殻熱部長「地熱エネルギーの将来」の記念講演が約350名の聴衆のもとで行われた．

記念式典

9月30日（木）　午前11時30分から　工業技術院筑波研究センター共用講堂において挙行された．　式典には

安倍晋太郎通商産業大臣　原田昇左右通商産業政務次官　石坂誠一工業技術院長　平塚保明鉱業審議会長をはじめ通商産業省　科学技術庁　公団　事業団　協会　学会　筑波研究学園都市の各省庁研究機関　関係町村および地質調査所旧職員の方々らの来賓が列席され　現職員を合せて約500名にのぼった．　式典は　井上総務部長の司会によってすすめられ　次長の開会の辞の後　陶山所長が式辞をのべ　ついで　安倍通産大臣　石坂工業技術院長の挨拶　平塚鉱業審議会長　川嶋（農業研究センター所長）筑波研究学園都市研究機関等連絡協議会座長の来賓祝辞　和達東京地学協会長ほかの方々の祝電披露があり次長の閉会の辞をもって午後12時10分　式典をとどこおりなく終了した．

上にのべた方々の挨拶　祝辞　祝電では　安倍通産大臣が「地質調査所が創立以来今日に至るまでわが国産業の近代化や経済発展の基盤づくりにおいて果した役割　諸先輩および現在の所員の努力と数多くの業績をたたえ同時に　現在　わが国が直面している厳しい社会情勢のもとで科学技術の果すべき役割とこの中にあっての国立試験研究機関に課せられた使命の重要性をのべられ　地質調査所がその使命の重大さをふまえ　今後一層の研鑽と発展することを希望する」とのべられたほか　それぞれの方がその立場から　地質調査所のこれまでの成果をたたえ　今後の発展を期待かつ希望され参列者に感銘を与えた．

引続き　12時20分から同講堂ホールにおいて祝賀会が催された．　司会の井上総務部長による開会のことばに始まり　陶山所長の挨拶　安倍通産大臣の挨拶とつづき原田通産政務次官の音頭で乾杯となった．　そして祝宴にうつり　来賓を代表して石原公害資源研究所長が祝辞をのべられ　午後1時30分盛会裡に祝賀会を終えた．

記念出版物

「日本地質アトラス」「地質調査所百年史」「地質ニュース特集号（No. 337）」「主要研究業務の紹介パンフレット」はすでに発行されており　「地質鉱産誌（英文）」は近く発行を予定している．　「日本地質アトラス」は地質調査所における永年の調査研究のデータを基に最近の研究成果を全国図として統一的に表示したものであり「地質調査所百年史」は地質調査所の歴史について本格的に書かれた貴重なものである．

また　主要研究業務紹介小パンフレットは　地質図の話　地質図の世界展　海底をさぐる　活断層　地質調査所における岩石高圧実験　地震予知をめざして—地下水テレメータ観測—　地熱エネルギー—その現状と将来—鉱物資源を探る—新しい探査法—　石炭のはなし—石炭組織学—　物理探査のはなし　地震探査　岩石の年齢をはかる—地質年代測定法—　国際協力—地質調査所の国際的活動—等がつくられ非常に分り易く書かれている．

地質見学会

茨城県教育委員会の後援のもとに10月3日（日）「筑波山周辺」「霞ケ浦周辺台地」の2コースについて行われた．　「筑波山周辺」コースは笹田　豊　坂巻技官をリーダとして「筑波山北方の花こう岩の産状と利用」をテーマに．　「霞ケ浦周辺台地」コースは坂本　磯部　宇野技官をリーダとして「霞ケ浦南方の台地をつくる第四紀層の見学と化石の産状」をテーマに　竜ケ崎二高　谷田部高　石岡二高　筑波高　下妻二高　茗渓学園　竹園中などの教員　生徒の方々が参加した．　幸い当日は天候に恵まれ　当初計画どおりに実施された．

以上のほか　**地質調査所研究発表会**では創立100周年を記念して　地質調査所に対しての各界からの期待と批判を求めて所外の方々に講演を依頼し　10月4日（月）13時10分から17時まで　日本地質学会長大森昌衛麻布大学教授　「地質学の課題」　深田淳夫全国地質調査業協会連合会長「地質調査業の現状と将来」　飯山敏道東京大学教授「市民生活の基盤としての地質調査所」　池辺穣石油資源開発株式会社専務取締役「石油資源の現状と将来」の4講演が行われた．

最後に　多忙な職務のなかで記念行事の円滑な遂行のために尽力された職員および関係各位に心から感謝する．

なお　上にのべた地質調査所における記念行事とは別に　「地質調査所創立100周年記念行事協賛会（会長平塚保明鉱業審議会長）」により計画された記念出版物の領布　記念講演会・記念祝賀会等の行事が非常に広範な方々の御賛同のもとに行われたことを付記し　平塚会長をはじめとする皆様に厚くお礼申しあげる．